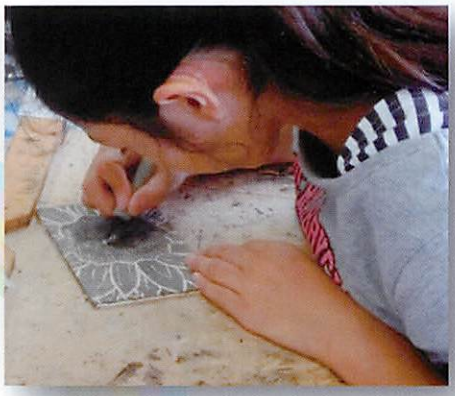
小学校図画工作科教授用資料

子どもがやる気まんまんになる

授業づくりア・ラ・カルト

横浜図画工作授業研究の会　編



開隆堂

もくじ

1年／わくわく どきどき ダンスたいかい！ ―― 4

かたがみはんがで たのしく ダンスする いきものたちを あらわそう

2年／もく・もく・モク・モク ―― 6

ネットに えだを ぬいこんで、いいなと 思う かたちを 見つけよう

3年／光＋色＝まどかざり！ ―― 8

色がすけて見える材料を生かして、まどかざりをつくろう

3年／あったらいいな、平戸タワー！ ―― 10

土粘土を切ったり、ほったり、削ったりした形から自分たちだけの平戸タワーをつくろう

4年／すって、ほって、また、すって… ―― 12

木版画の特徴を知り、インクの色を考えて刷ったり、彫りあとを工夫して彫ったりしよう

6年／6年生の力で！　私の平戸ソーラン節 ―― 14

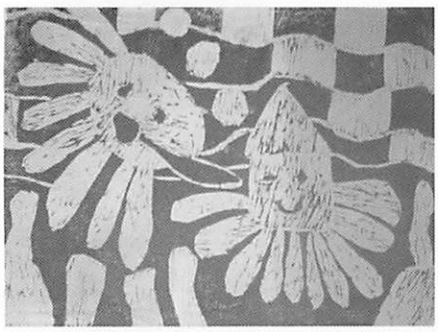
ソーラン節を力強く踊る自分を粘土で表そう

6年／ミクロの視点で追究しよう！　ヒーラドーヴの美ここにあり！ ―― 16

平戸の自然物から見つけた美しさを細密版画で効果的に表そう

特別支援学級／ゴムをつかって、3☆2☆1 ―― 18

ゴムで とばして みんなで あそべる おもちゃを つくろう



子どもがやる気まんまんになる、図工の「授業づくり」とは

前・横浜市立平戸小学校 校長
前・横浜市小学校図画工作教育研究会 会長　橋本敬子

すてきな図工の授業は、必ず子どもたちの思いがふくらんできます。
すてきな図工の授業は、必ず子どもたちの思いを培っています。

子どもたちは、一人一人の体験や、今、生きているありように応じた表現を生み出しています。私たち教員がその手助けをするとしたら、環境を整備して広げ、子どもたちの考える力を発揮できるように仕組むことではないでしょうか。
仕組むといっても、それは橋渡しに近いものです。子ども自身が「前にやったことにつながっているんだ」と感じたり、「そう思っていたんだ」と自分を見つめ直したりすることに関係づけることです。

今日、自分が体験したり見つけたりしたことを友達に伝えたいという思いが、つくる意欲につながります。いろいろ試したりやってみたりしながら、思いついたりひらめいたりすることが、つくる意欲につながります。
そして、「もの、こと、人」とかかわりながら、子どもたちは自分を表現していきます。自分が好きなことであれば、なおさらです。十分に感じる時間が保障されていれば、なおさらです。自分が見つけたことを試すことができる環境があれば、なおさらです。

私たちは、世の中の「もの、こと、人」を、身体を通して感じています。感じ方やその強さは、その人の特徴にまでなっています。
しかし、感じる力は、どんな人であっても、心と結びついて表現されていると思います。雪を見てロマンチックだと感じたり、花の香りにうっとりしたりするのも、心と結びついているからこそ表現されているのでしょう。感じた何かを受け取る心の力が表現しようとする「やる気スイッチ」ではないでしょうか。

この心を育てるためには、子どもの今を見つめた授業でなくてはなりません。
この心を育てるためには、子どもの生活全体（学校、家庭、地域）を見つめた授業にしていかなければなりません。

こんな考え方のもとに、授業を見つめ直し、多くの先生方に実践していただきました。感謝申し上げるとともに、実践の輪が広がることを期待しています。

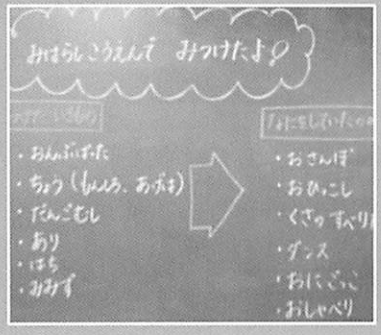
1年	わくわく どきどき ダンスたいかい！ ～かたがみはんがで たのしく ダンスする いきものたちを あらわそう～	時間数 3～5 実施時期 9月

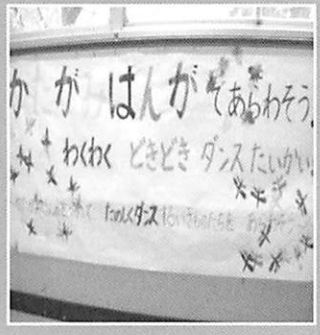
学校

少しずつ大きくなるヤゴの様子や泳ぎ方、息をする様子を毎日じっくり眺め、丁寧に観察カードに表す様子が見られた。トンボに孵化したときにはその様子を見守り、自然にかえる喜びを実感した。

6月　生活科
ヤゴを育てよう

①ローラー遊びで、スポンジローラーをたくさん転がすことを楽しむ。同時に、色の濃淡や重なりのおもしろさに気づいたことが、版を刷る際にも生かされていった。





②見晴らし公園で見つけた虫たちは何をしていたのかを話し合い、散歩、会話、ダンスなどの意見が出た。その中で、版の向きを変える表現が出るようなダンスに注目し、曲に合わせて、虫になりきって踊る体験をした。そこから、自分が見つけた虫の型紙づくりに入っている。

家庭・地域

登下校中や放課後の活動中で、見つけた虫を捕まえて飼ったり、育て方について家族で話したりする機会が増えた。家で飼っている虫をよく見ながら遊ぶようになり、虫とのかかわりが増えていった。

毎月行われる見晴らし公園の掃除や花壇のサツマイモ掘りに参加しながら、見晴らし公園に愛着をもつようになっていった。

秋の生き物や植物について学習し、公園に探検に行った。ドングリやバッタ、だんご虫などを見つけた。体全体で虫とのかかわりを楽しんだ。休み時間にも、虫かごを持って虫探しに行く様子が増え、虫に対する愛着や関心が高まっていった。

■学習の主題

感じたことや想像したことから表したいことを見つけ、思いのままに表すことを楽しむ。

■題材の意図

ローラーを転がす楽しさや版の型紙を外したときの感動に出合い、夢中になってのびのびと活動できるようにしたい。その中で、次々と活動を進めていく楽しさを感じながら、発想を広げる力を身につけさせたい。また、同じ形でも、向きや色を変えることで動きが出たり、別の見え方ができたりするおもしろさを感じてほしい。

題材名を型紙版画でつくり、掲示した。虫たちの向きが多様で、また、紙からはみ出している虫もある。この掲示や友達の作品から、版の重なりやはみ出しなどの表現を取り入れる姿が見られた。

使用する絵の具の色と量を制限した。色は赤・青・黄、量は使い切る量にして、各グループに配付した。その結果、版を重ねて刷ってみたり、色が重なったときのおもしろさに気づいたりすることにつながった。

2年
版からお話が生まれたよ

③自分の好きな虫たちがどんなダンスをしているのか、イメージをふくらませ、楽しみながら版を刷っている。

④絵の具ののばし方やちょうどよい量、版を刷るときにしっかり押さえるなどのポイントを意識し、向きなどを考えながら刷っている。

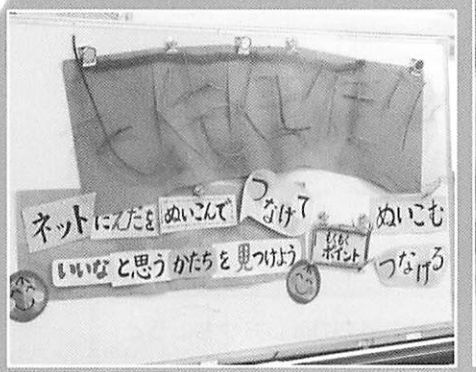
「私の○○はね、こんなダンスをしているんだよ!」と楽しそうに話す姿が多く見られた。版を刷るポイントを知り、版を刷ることの楽しさや、版を重ねたり、向きをかえたりしながら表すことのおもしろさを体験することができた。その体験がさらにイメージを広げて表す意欲へと、つながっていくと思われる。

2年	もく・もく・モク・モク ～ネットに えだを ぬいこんで、いいなと 思う かたちを 見つけよう～	時間数 1 実施時期 2月

学校

見晴らし公園へ冬を探しに行った。雪が降った後だったので、滑らないように気をつけて歩いていたら、枝がたくさん落ちていることに気がついた。小さい枝だけでなく、大きい枝も落ちていたので、手に持ったり、引きずったりしながら、教室前の廊下まで運んだ。こんなに枝があることを知って子どもたちはとても驚いた。教室の前に木の枝を山のように積んだときにみんなで喜んだ。

生活科
「冬のたんけん」
「さつまいもを
そだてよう」



①ネットに木の枝を「縫い込む」ようにつけ、「いいな」と思う形を見つけていくことを子どもたちと確認した。「早くやりたい」というつぶやきがあった。

②子どもたちは、一人一人で、思いのままにネットに木の枝、木の皮をつけた。自分の活動に集中している姿が見られた。

家庭・地域

枝を使って造形することを知った地域の方がしゅろの木を持ってきてくださった。生活科で拾った枝といっしょに使うと活動が広がるのではないかと考えた。しゅろの木の皮をむいたり、むしったりするのをいっしょに手伝っていただいた。子どもたちは、しゅろの木にこんな皮があることやモジャモジャがあることを初めて知った。

地域の方から梨の畑で使わなくなった青いネットをいただいた。ぐるっと俵のように巻いた状態のものを二つもいただき、学校に運んでくださったときは、小さなバイクからはみ出すようだった。枝としゅろの木、ネットがあったので、子どもたちのイメージがふくらでいった。

■学習の主題

材料をもとに、思いのままにつくり続けることを楽しむ。

■題材の意図

自分でいいなと思う形を見つけながら、ネットに木の枝を縫い込んでいく活動である。ネットを使うことにより、両面から枝を縫い込むことができ、お互いの表現活動を見合いながら、活動することの楽しさを味わうことができると考えた。身近にある材料を使うことから、地域の自然を大切に思う豊かな気持ちを育てるとともに、意欲をもって、学習を進めていこうとする力が育つと考えた。

地域の方からいただいた青いネットを図書室の天井からVの字になるように広げて吊るした。縫い込むようにネットにつけ、つなげていくときに、子ども同士が向かい合う形になり、友達の顔を見たり、話し合ったりしながら、活動できた。

地域の方が授業の様子を見に来てくださり、「しゅろの木はよかっただろう」とうれしそうに話しかけてくださった。子どもたちも笑顔だった。地域の方に笑顔で話しかけられると、子どもたちはますます張り切って、木の枝や木の皮をつなげていこうとしていた。

次の造形遊び
「かみを使って
たのしいことが・・・」

③近くで活動していた友達の活動から「いいな」と思うところを見つけ、自分の活動と友達の活動がつながっていった。

④少し離れたところで活動していた友達の活動にも目を向け、「いいな」と思うところを感じたり、自分たちの活動のよさを話したりしながら、さらに活動を続けていった。

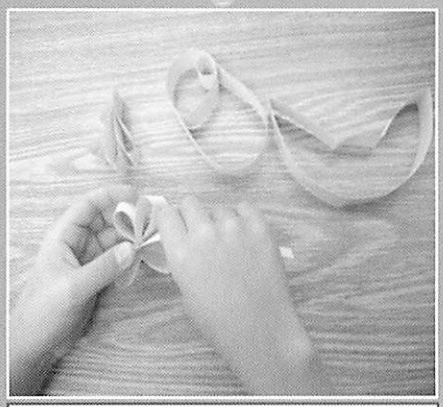
みんなの活動が一つにつながると、一人より「いいな」と思える活動になった。子どもたちは、がんばって活動したこと、工夫したことをうれしそうに「見て、見て」と話していた。３年生では、自分の表現を大切にしながらも、友達といっしょに工夫して活動することのよさを感じることができると考える。地域の方は、いつも笑顔で子どもたちに声をかけたり、接したりしてくださるので、子どもたちはいつもうれしい気持ちで活動できる。地域の方からいただいた青いネットやしゅろの木の皮を材料に加えたことで、活動が広がり、発想が大きくふくらんだと思う。子どもたちが地域の方とのかかわりを大切にした活動ができたことで、今後、地域のよさを生かした活動に、さらに意欲的に取り組んでいくと思われる。

3年	光＋色＝まどかざり！ ～色がすけて見える材料を生かして、まどかざりをつくろう～	時間数 4 実施時期 10月

学校

光と影がつくる美しさを窓ガラスや階段などの目につくところに作品として掲示し、興味をもつようにした。絵の具と同じように、色セロハンを重ねることで、新しい色ができることを知り、光の入る場所をよりすてきな場所にすることを具体的にイメージすることができた。

2年生での
身辺材料を使った
活動



①カッターナイフを使い、画用紙から帯状の紙をつくり、切ったり、折ったり、くせをつけたりすることで、様々な形を楽しむ。

②帯状の紙でできた形から、自分の表したいイメージを思いついたり、トレーシングペーパーに接着し、影ができ、輪郭となることを考えたりしている。

家庭・地域

光をかざして楽しむものにはどんなものがあるか尋ねたところ、ステンドグラスがあがった。その後、色を透かして見えるものを探したり、見つけたりする様子が見られた。生活を楽しむための窓飾りであることを伝え、家のどこに飾るか、学校ではどこに飾りたいかを具体的にイメージできた。

■ 学習の主題

生活を楽しくするものの用途を考えながら、工夫して表すことを楽しむ。

■ 題材の意図

身近な材料をひと工夫することでできる形やその形を組み合わせてできるおもしろさを味わったり、色の組み合わせを楽しんだりしてつくるようにしたい。

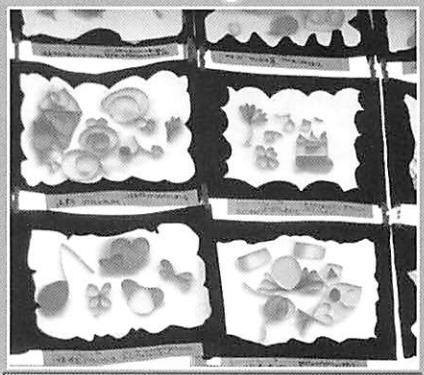
題材名を色セロハンや紙を使って表した。その美しさに関心をもち、どのようにつくっているのだろうかと、実際に裏側の接着のしかたを見ることで、イメージがふくらんでいった。

つくりながら光に透かして色合いを確かめられるように、机を窓側に向けて活動した。自分や友達の製作途中の作品を教室内に掲示する場をつくることで、互いの作品を鑑賞し合い、そのよさを生かすことができた。

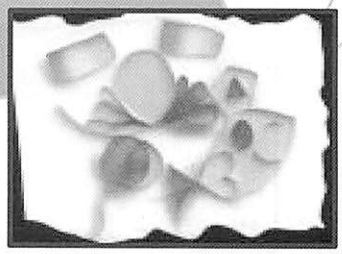
でき上がった作品を階段の窓に掲示した。友達の作品をじっと立ち止まって見て、「時間によって違って見えるね」という声が聞かれた。理科の発展学習では、材料に合わせて切ったり接着したりしながらおもちゃづくりができた。

高学年の抽象的なものを表す活動

③教室では作品を常に窓側に掲示し、互いの作品を鑑賞し合い、自分の作品づくりに生かす。帯状の紙に色セロハンを貼り、光にかざし、自分のイメージを広げ、色調を考えて色を重ねたり、新しく形をつくったりする。



④作品に合わせて黒画用紙をカッターナイフで切り取り、外枠をつくる。



光を遮ることで影ができることを知り、影の美しさやおもしろさを見つけた。影おくりや影踏みオニをして遊ぶ姿が見られた。

授業参観などで保護者や地域の方に、教室内に掲示していた作品を見ていただく機会となった。「どのようにつくったのですか」と声をかけてくださる保護者の方もあり、家庭でも話題になったようであった。

材料に応じて接着する方法を選ぶことやカッターナイフなどの道具を使う経験が高学年での工作の学習につながる。また、紙でできた曲線や直線などの形の組み合わせや、色の組み合わせからの「○○な感じ」がするなど、具体物ではなく抽象的なものをつくったり、鑑賞したりすることができた。このことが高学年での自分の表したいものを効果的に表す活動につながると思われる。

3年	あったらいいな、平戸タワー! ～土粘土を切ったり、ほったり、削ったりした形から 自分たちだけの平戸タワーをつくろう～	時間数 3 実施時期 7月

学校

町探検に行き、自分たちの住む平戸という町の特徴について調べた。そこで、平戸の町には旧東海道が通っていたことや「一里塚」は旅人たちの道標となっていたことを知った。

粘土で自分だけの一里塚をつくるという活動を考えた。しかし、実際の一里塚を見ると固定概念にとらわれてしまい、創造的な活動には結びつかないことが懸念された。地域に対する関心を生かし、よりダイナミックな活動ができるように自分たちの地域にあったらいいなと思うようなタワーをつくることにした。

6月　社会科
たんけん、発見、わたしたちのまち

①粘土体操という、粘土を丸めたり、長くしたりする活動を通して、粘土の可塑性を体全体で体験している。また、「粘土マスターへの道」という、へらや切り糸を使う活動では、様々な模様や切り跡がつけられるということを知り、楽しんで活動している。

家庭・地域

「一里塚公園」の一里塚がとても歴史の長いものだと知った子どもたちは、公園にある一里塚の説明を読みに行ったり、他の一里塚について家の人と調べたりして関心を深めた。

■ 学習の主題

感じたことや想像したこと、見たことから表したいことを見つけ、工夫して表すことを楽しむ。

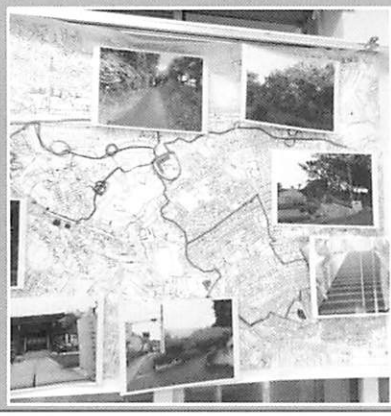
これまでに習った表現方法を確認したり、へらや切り糸を使った表現方法を習得したりする場を設けた。それらを「粘土マスターへの道」と児童に投げかけ、楽しみながら土粘土と十分に触れ合えるようにした。その経験が平戸ダワーをつくる際にも生かされていった。

■ 題材の意図

３年生で町探検を経験し、平戸の町のよさや特徴に気づいた。そこでこの題材では、自分の町にあったらいいなという思いを、グループで協力しながらタワーに表す活動とした。その際、切り糸等で様々な形にできることに気づき、表現に生かせるようにした。土粘土は可塑性があり、試行錯誤しながら表現し続けることができる。そのよさを体全体で感じ、楽しみながら活動できるようにしたい。

町探検の地図と地域の写真を掲示しておくことで、いつでもイメージをふくらませることができるようにした。

高学年の抽象的なものを表す活動



②平戸のどこにどんなタワーがあったらいいかということを子どもたちに考えさせることで、登下校中や遊んでいるときに「ここにこんなタワーがあったらいいな」と、自然と意識するようになった。

③上からや横からなど、様々な視点から作品を見ることで、新たなアイデアが生まれ、それを友達と話し合いながら活動を進めている。

平戸のどこにどんなタワーがあったらいいかということを子どもたちに考えさせることで、登下校中や遊んでいるときに「ここにこんなタワーがあったらいいな」と、自然と意識するようになった。

地域の「見晴らし公園」からは、ランドマークタワーが見える。「みなとみらいと言えば、ランドマークタワー、平戸と言えば〇〇」と、子どもは平戸の町のよさや特徴を考えるようになっていった。

タワーが完成したとき、子どもたちは平戸の特徴が表現されたタワーを見て、満足気に「実際に置きに行きたい！」と言っていた。様々な技法で自分の思いを表現できた子どもたちは、次の粘土での活動にも自信をもって取り組むことができると思われる。

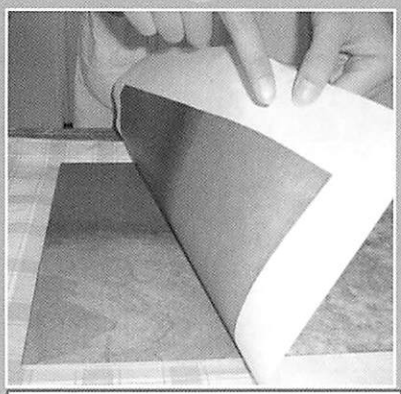
4年	すって、ほって、また、すって… ～木版画の特徴を知り、インクの色を考えて刷ったり、 彫りあとを工夫して彫ったりしよう～	時間数 7 実施時期 11月

学校

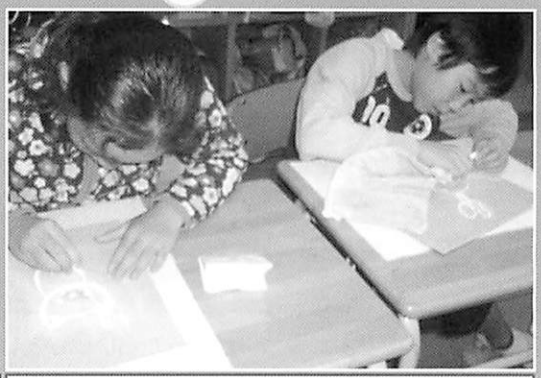
６年生の木版画や裏彩色を使った棟方志功の木版画、北斎、広重、国芳の浮世絵を鑑賞した。みんなで鑑賞し合う時間（帯学習 15 分）を設定した。表現方法や構図などをつかみ、木版画のイメージをもつことができた。

版画の刷りを楽しむことができるように何も彫っていない板にインクをつけて、下紙を刷った。その後に、表現テーマの「大好きなもの」の絵を版木に直接、チョークで描いた。一人一人が自分の大好きなものを決めて、自分の夢や希望を構成し、進んで表現していこうとする気持ちを育てることができた。

3年 紙版画
版の組み合わせや
写し方・色合いの工夫



①イメージするインクの色合いを考えて刷りを楽しんでいる。



②自分が表したい感じを表すために、彫るところを白いチョークで版木に直接描いていく。大体の形をイメージすることができるので、彫りの線が細かくなり過ぎない。

家庭・地域

学級通信で、保護者に本題材を紹介し、北斎、広重、国芳など鑑賞作品についても取り上げた。家庭でも関心をもち、北斎、広重、国芳など浮世絵の絵葉書や画集などを持って来たり、展覧会などに行って鑑賞したりするなど反響があり、広がりがあった。

■学習の主題

感じたことや想像したこと、見たことから表したいことを見つけ、工夫して表すことを楽しむ。

■題材の意図

板を彫って写す表現の楽しさを味わいながら、自分の表したいことの想像を広げていく。インクの色合いを工夫したり、彫刻刀を使って面や線で表現したりしていくことで、形や色、組み合わせを工夫する楽しさに取り組ませていく。作品に込めた思いを友人と伝え合い、共有していく中から、自分らしさやその人らしさを認め合う力を培いたい。

版木より大きなサイズの滑り止めネットを使用した。自分の体を動かさずに版木を自由に回転することができ、彫る活動をスムーズに行うことができた。版木をＢ４サイズより一回り小さいＡ４サイズにすることで、彫りの負担を軽減することができた。彫りに集中する時間を取り過ぎず、刷りの楽しさを味わう時間を確保することができた。

彫りあと当てや５、６年の鑑賞につながるような江戸時代の浮世絵についての簡単なクイズをつくった。階段に掲示して他学年も休み時間などにクイズにチャレンジして楽しんでいた。

下紙を３枚用意していたので、刷り終えたものから順につなげていった。３枚掲示することで、どのように考えを深めて刷っていったのかを見取ることができた。お互いの作品をすぐ鑑賞することができるので、自分の表現に生かすことができた。

５年の彫り進み版画、江戸時代の作品鑑賞

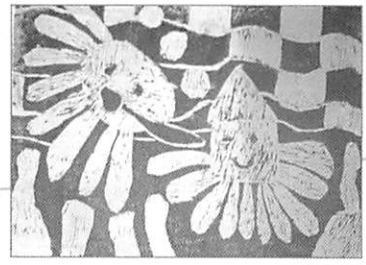
③彫刻刀の種類や彫りの程度による表現の違いを感じながら、表したいことに合わせ、工夫して彫っている。線彫りだけでなく、面彫りしたり、白黒のバランスを考えながら陽刻と陰刻の対比を工夫したりして表現している。

④「大好きなもの」を彫った版木を何色で刷っていくと、下紙に合うのかを考えていった。色合いを考えたり色をつくったりしている。

⑤一人一人に練り板・ローラーセットが渡るように準備し、順番を待つことなく活動を進めている。作品を刷り終えた後、作品を乾燥棚に置くのではなく、乾かしながら掲示していく。針金を図工室に張り、３枚の作品の表現過程を見合える場ができた。気に入った作品を家で飾ることができるように額や台紙をどうするか考えを巡らしている。

北斎の冨嶽三十六景を見て、富士は昔から絵の対象として表現されていたことに気づいた。世界遺産になった富士が美しく見える学区であることに誇りをもつことができた。旧東海道が学校横を通っていたので、広重の東海道五十三次の戸塚宿などの鑑賞を通して、地域にも着目し、版画への興味を広げることができた。

今回の刷りを重ねていくことは、５年で行う彫り進み版画に対する理解への抵抗が少ないと考える。４年の木版画の経験を通して、家でやってみようとする児童や年賀状などの作品にも触れ、木版画を使って表現していこうとする意欲を育てるなど、日常化につながると思われる。



6年	6年生の力で！ 私の平戸ソーラン節 ～ソーラン節を力強く踊る自分を粘土で表そう～	時間数 5 実施時期 6月

学校

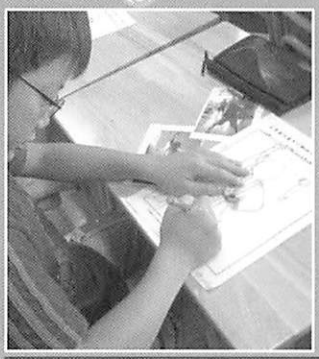
５月の運動会で、ソーラン節を踊った。練習では、「足の形を五角形にすること」「手は地面と平行」など、「力強い演技にするため」の声掛けを繰り返し行ってきた。本題材では、力強さを表現の主題とした。実体験と重ねながら、イメージしている姿が見られた。

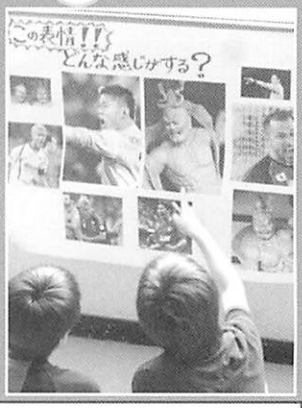
教室の壁面に題材名とソーラン節で使った法被（はっぴ）と旗を掲示した。テーマを子どもたちに伝えるとともに、法被や旗を掲示し、踊ったときの気持ちを思い出せるようにした。

６年生が通る階段に、力強さを表している写真を掲示し、「どんな感じかな？」と投げかけた。掲示物の前に立ち止まって見ている姿が見られ、力強さが表れるポイントについて考えている様子であった。

５月
体育　運動会
ソーラン節

①ソーラン節を力強く踊る姿という言葉を聞いたり、紙粘土に触ったりしながら、発想を広げる。





②力強さを表すために、体の動きや顔の表情などを考えながら、イメージした姿をアイデアスケッチに表している。スポーツ選手や彫刻などの写真を見て、力強さが表れる表情や体を考えている。

家庭・地域

粘土で表すもののテーマをソーラン節とした。そのため、家庭でソーラン節を踊ったときの姿をビデオで見てくる子どもがいた。家庭でも図画工作科の活動が話題となり、事前にイメージをふくらませている様子であった。

ソーラン節の法被をリアルに表現するために、家からプラスチックの破片を持って来た。事前に活動の見通しをもつことができるようにすることで、家庭で材料を探す姿が見られた。

■学習の主題

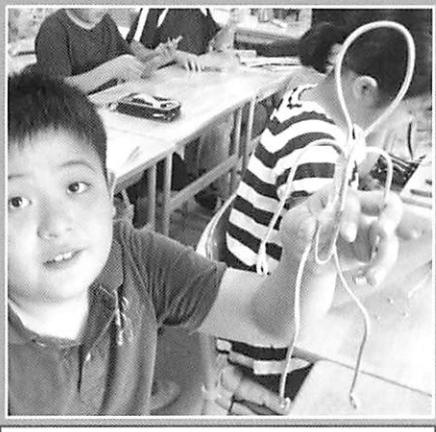
感じたことや想像したこと、見たこと、伝え合いたいことから表したいことを見つけ、効果的に表すことを楽しむ。

■題材の意図

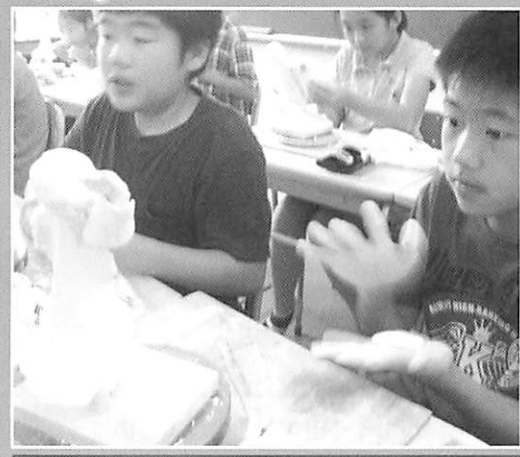
絵を描くときに見られた粘り強さや追求する姿勢を、立体に表す活動でも発揮できるようにしたい。自分の思いを思い通りに表現することができたときの喜びや達成感を十分に味わえるようにしたい。粘土の重量感を生かしてほしいという思いや、子どもたちの生活体験とつながりが深い内容を取り上げたいという思いから、ソーラン節を力強く踊る姿を表す題材を設定した。

回転彫塑台を使って活動したことにより、前後からつくっているものを見ることができ、全体のバランスを考えたり、細部にまでこだわったりして活動をすることができた。

12月
心を届ける
平戸小の芸術家



③ソーラン節を力強く踊る姿を、思いのままに表すために、針金で心材をつくっている。



④ソーラン節を力強く踊る姿の構想に従って、粘土の可塑性や量感を生かしながら、力強い姿を表している。

作品を職員玄関に置いた。作品を見た地域の方が、「運動会のソーラン節の感動がよみがえったよ」と言ってくださった。子どもたちは「ソーラン節を踊ったときの気持ちを思い出したい」と思い、学級の作品をソーラン節を踊ったときと同じように並べて鑑賞した。運動会でのソーラン節は学年で踊ったので、学年での鑑賞会をするとより効果的であったと思われる。

完成後、「これは、僕にとってパスポートみたいなものだ！」とつぶやいていた。自分の気持ちや思いを十分に表現することができたことの表れであると感じた。また、「力強さ」を効果的に表すために何度もつくり直す姿が見られ、自分の思いを追求していることが伝わってきた。次に絵で表す活動の「心を届ける平戸小の芸術家」では、本題材の経験を生かし、自分の思いをより効果的に表す活動ができると考える。

6年	ミクロの視点で追究しよう！ ヒーラドーヴの美ここにあり！ ～平戸の自然物から見つけた美しさを細密版画で効果的に表そう～	時間数 5 実施時期 9月

学校

裏に「注文の多い料理店（序）」を刷った担任の細密版画をプレゼントした。枠とインク、画用紙の色の組み合わせをそれぞれ変え、自分が美しさを感じる組み合わせに気づくことができるようにした。

宮沢賢治の「やまなし」を学習する中で、自然物を見つめる賢治の視点や表現の美しさに注目した。自分の生活を振り返り、自然物の美しさを発見する力をつけることをねらって、読み進めた。

国語
イーハトーヴの夢
同時進行で
やまなし

①自然物がつくり出す造形的な美しいフォルムや模様を自分なりの表し方で、細密画に表している。

②描きためたスケッチをもとに、より美しさが表れるように再構成している。下絵を版木に写し、三角刀のもつ繊細で鋭い彫りあとを生かして彫っている。

家庭・地域

学校の隣にある見晴らし公園でスケッチを楽しみ、木の幹や葉脈などのもつ視覚的な美しさに気づいた。風が葉を揺らすときの音や刻々と色を変える光の様子を全身で感じながら活動することができた。平戸の地域を自分たちの町として、より愛着をもつよい機会となった。

家庭から持って来たり、地域図書館から借りたりして宮沢賢治の他の作品について並行読書をした。また、伝記を読んだ児童を中心に、宮沢賢治の生き方に興味をもつ児童も増えてきた。

■学習の主題

感じたことや想像したこと、見たこと、伝え合いたいことから表したいことを見つけ、効果的に表すことを楽しむ。

■題材の意図

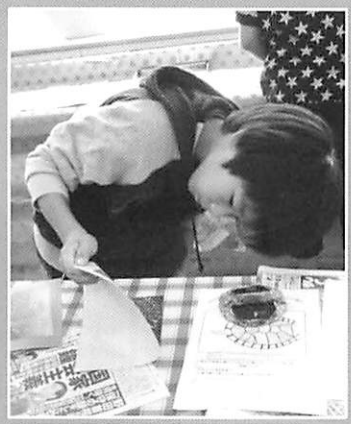
自然物がつくり出す造形的なフォルムや模様の美しさに気づき、その美しさを自分なりにイメージをふくらませて表現する楽しさを身につけたい。また、自分の思いと向き合い、美しいと感じる表現を追究することに没頭する楽しさにも気づかせたい。

その後学習した「海の命」でも、表現の美しさに注目して読み進めた児童が多かった。自分の好きな表現を探すなど、絵だけではなく、言葉の美しさにも目を向けるようになった。

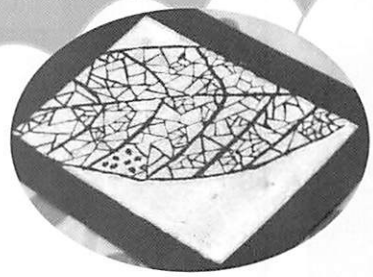
理科で土地のつくりを学習し、いろいろな岩石を観察した。模様や、色の美しさやおもしろさを感じ、丁寧にスケッチする児童が増えてきた。

12月
心を届ける
平戸小の芸術家

③表したい感じが表れるように、インクや紙の色を工夫して刷っている。



④自分や友達の作品の美しさやおもしろさに気づき、伝え合っている。



「やまなし」から鉱物の美しさに関心をもった児童を中心に、鉱物図鑑を持って来たり、インターネットで調べてくるなどして、眺めている姿が見られるようになった。

この題材を終えて、葉脈ののびやかさや亀の甲羅の緻密さなど、自分の身近にある自然物の「美しさ」に気づくことができた。次の題材である「心を届ける平戸小の芸術家」の学習では、色合いや構成、筆のタッチの特徴などからも、美しさを探したり、感じたりすることが期待できる。また、それを自分なりに表現しようとする意欲にもつながると思われる。

地域図書館で本を借りたり、家庭のパソコンで興味のあることを調べたりして、宮沢賢治の自然物に対する視点が家庭の中でも話題になった。児童の表したいことが明確になるにつれて、持ち帰った作品から、それぞれの思いが家族にも伝わるようになった。

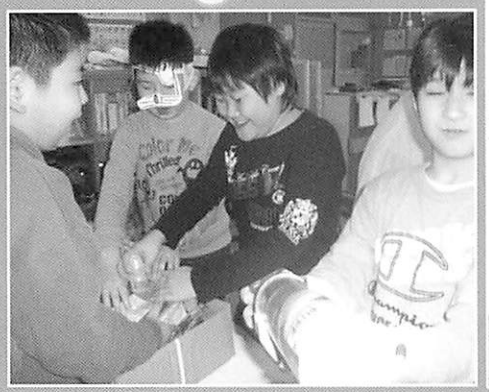
特別支援学級	ゴムをつかって、3☆2☆1 ～ゴムで とばして みんなで あそべる おもちゃを つくろう～	時間数 4 実施時期 12月

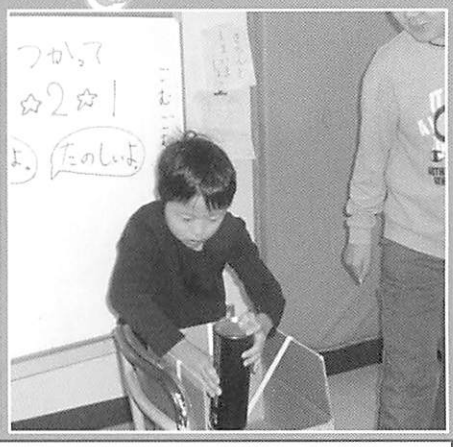
学校

身近な材料、他教科等で使い慣れ親しんだ用具などを使うことによって、安心して表現することができる。本題材の第１時では、自分のおもちゃをつくる前に箱を飛ばして遊ぶ時間を十分に確保し、より安心して取り組めるようにした。

障子紙に大きな山を描いて中をくり抜き、棚に貼った「山ゾーン」、園芸ネットを天井から吊るした「海ゾーン」「秘密基地ゾーン」など、発射台で飛ばすことを楽しめるような場の設定にした。休み時間もそれらのゾーンで遊べるようにし、場に愛着がもてるようにした。

学習発表会
（箱を使った掲示物）
英語・理科
（ゴムを使った教材）





①床や机に置いた発射台、上向き・横向きの発射台など様々な発射台で、用意した箱を飛ばしている。何度も繰り返し飛ばして遊ぶ中で、おもしろい飛び方、お気に入りの箱など、一人一人が自分のこだわりを探している。友達の活動を見たり、いっしょに飛ばして遊んだりしながら、楽しみ方を広げている。

家庭・地域

ゴムを使ったおもちゃをつくることを事前に保護者に連絡した。自分で探すことが難しい子については、どんな箱を使ったら楽しく表現できるかを、飛び方、柄、形、感触、持ちやすさなど、様々な視点から保護者と相談することで、一人一人の興味に合う箱を探すことができた。

保護者と共通理解ができたことで、活動への思いがふくらみ、安心して取り組んでいた。また、日常生活の中では制止されがちな「ものを飛ばす、落とす」という行為も、学びとして家庭で受け入れられ、やってみたいと思う気持ちを積極的に表すことができた。ゲームや既製のおもちゃでなく、自分でつくったおもちゃで遊ぶ楽しさに気づくことは、余暇活動を考えるうえで大きな力になると考えている。

■学習の主題

生活を楽しくするものの用途を考えながら、工夫して表すことを楽しむ。

■題材の意図

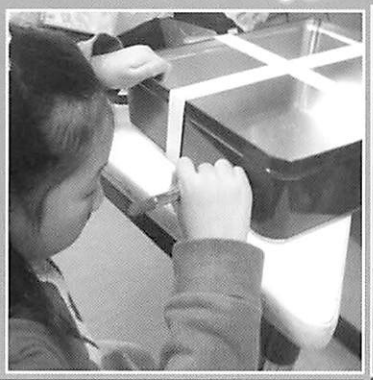
身近にあるものを使っておもちゃをつくる過程で、様々なもの、こと、人とのかかわりを大切にし、自分の思いを表すことを楽しめるようにしたい。 身近な材料をひと工夫することでできる形やその形を組み合わせてできるおもしろさを味わったり、色の組み合わせを楽しんだりしてつくるようにしたい。

今やっていることを友達に伝えられるように、第１時で使った「はっけんマーク」をホワイトボードに貼ることにした。「おもしろい動きを見つけたよ」「お気に入りの材料を貼ったよ」といった思いを表現し、友達や教師に視覚的に伝えられた。

つくり始めるまでに時間がかかる子やつくり続けることが難しい子は、絵を描いたり、コラージュをしたり、安心して取り組めることから始めた。また、一人一人の興味に合ったアイテム（チラシ、写真、シール、ビーズ、鈴、ぬいぐるみ等）を用意し、必要なタイミングで提示することで、楽しさを発見しながらつくり続けることができるようにした。

にじ色の魚が泳ぐ海の世界へ～合同学習発表会の準備をしよう～

②興味に合った材料をいくつか提示し、その中から自分で選ぶことで、「自分で」選んだ、つくった、という思いをもって活動している。



③箱に表現することにはまだ気持ちが向かない子には、自分だけの発射台を特別に用意した。発射台に好きな絵を描く活動から始めることで、安心して表現している。

④その後、のびのびと表現し続ける。「もう１個つくる！」と自分らしく飾り、お気に入りのおもちゃをつくっては遊び、つくりかえ、楽しんでいる。

おもちゃづくりは、遊びの幅を広げるとともに、友達とかかわりながら遊ぶきっかけとなった。「すごい」「それいいね」「どうやってつくったの？」という言葉が出てくるようになったことは、日常生活の中でも、自分の思いを伝えることや相手を思いやる気持ちへとつながっていると考えている。

校内の作品展でおもちゃを廊下に飾ると、交流級やペア学年の友達からたくさんの手紙をもらった。「まだ完成していないんだ。これからもっと進化するよ」と言いながら、飾ってはつくり、壊れたところを直しては飾り…。授業が終わっても納得するまでつくることを楽しむ姿が見られ、つくり続ける力につながると思われる。

小学校図画工作科教授用資料

子どもがやる気まんまんになる
授業づくりア・ラ・カルト

平成 26 年 4 月

編著　横浜図画工作授業研究の会

発行　**開隆堂出版株式会社**
〒113-8608　東京都文京区向丘 1-13-1
☎03-5684-6122(営業部)／03-5684-6117(編集部)
http://www.kairyudo.co.jp